



黒石目地塗鞘糸巻太刀拵（江戸時代）

刀 無銘 助真（鎌倉時代）

平成26年度秋季特別展覧会 八代の歴史と文化24

もののふの美と心

八代城主・松井家の刀剣と刀装具

平成26年10月24日（金）—11月30日（日）

- 入館料／一般600円（480円） 高大生400円（320円） 中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※11月3日（月）文化の日）は無料開放
- 開館／9時～17時（入館は16時30分まで） ■休館日／10月27日（月）、11月4日（火）、10日（月）、17日（月）、25日（火）
- 主催／八代市立博物館未来の森ミュージアム、八代市、一般財団法人松井文庫、熊本日日新聞社 ■協賛／公益財団法人宮崎利治学術財団
- 特別講演会Ⅰ 10月25日（土）13時30分「刀剣講話―松井家伝来刀の魅力―」講師／稲田和彦氏（京都国立博物館名誉館員）
- 特別講演会Ⅱ 11月29日（土）13時30分「戦国時代の松井家」講師／林千寿（当館学芸員）
- 実演講座 11月15日（土）13時30分「刀剣研磨師のしごと」刀剣研磨師／正海都雄氏 ※会場はいずれも博物館講義室、聴講無料、事前申込み不要

八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 TEL0965(34)5555 FAX0965(33)9200

騎馬戦に適した腰反りの太刀 京都三条の名工宗近の作(平安時代)

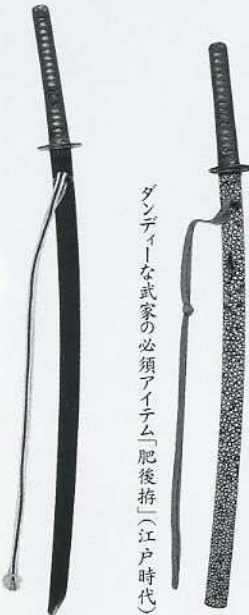


《重文》実戦に適し姿も美しい刀 京仕込の備前刀工雲生の傑作(鎌倉時代)



刃文の景色が美しい美濃の短刀 銘「兼升」(室町時代)

ダンディーな武家の必須アイテム「肥後拵」(江戸時代)



シンプルさの中に漂う風格 細川・松井両家に伝わる「武蔵拵」(江戸時代)

もののふの真髄ここにあり

松井家秘蔵の刀剣一挙公開

「巖流島では
こんな木刀で戦った」
と武蔵が削り
松井家三代寄之に
贈ったという
(江戸時代)



松井家二代興長の肖像画 背後に描かれているのは写真(左)の兜
身に着けた陣羽織は徳川家光より拝領(寛文三年・一六六三・部分)



秀吉から松井家初代康之が拝領した兔耳の兜(桃山時代)



頭上の鉄形が目を引く
細川三斎が実戦経験をもとに考案した三斎流の甲冑(江戸時代)

ものふ(武士)にとって刀剣とは
実用の武器であると同時に
特別な意味を持つ

主君から拝領した刀剣は家のほまれ
そして武士の美学を象徴する存在

肥後細川藩の筆頭家老
八代城主を世襲した松井家には
中世以来の名刀が多数伝来

その特徴は実戦に適した
「用の美」を備えていること

刀身を納める刀装具(拵)は
肥後金工師による
金具を用いた「肥後拵」
大名茶人細川三斎の
好みを伝える侘びた趣き

松井文庫創立三十周年を記念して
秀吉や家康など天下人からの拝領品
宮本武蔵ゆかりの品々も展示

- 第一章 武のほまれ
 - 第二章 宮本武蔵との交流
 - 第三章 伝来の刀剣と刀装具
- 「用の美」を備えた刀剣
波さが魅力の肥後拵

室町幕府十五代將軍足利義昭から松井康之が拝領した朱柄の槍(室町時代)

【交通のご案内】

- JR** 鹿児島本線・肥薩おれんじ鉄道八代駅下車3km
九州新幹線新八代駅下車6km
- バス** 八代駅・新八代駅西口から「検察庁・法務局・市博物館前」
「北荒神町福祉センター前」「八代市役所前」いずれかのバス停下車
- 車** 八代I.Cから八代港線に入り、田中西町交差点を左折(南下)
松浜軒前交差点を右折すく ※大型バス4台、普通車40台駐車可



八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 TEL0965-34-5555 FAX0965-33-9200
博物館ホームページ <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>